

廣田理太郎邸資料の紹介

早川典子*

目次

- 1 はじめに
- 2 設計者ゲオルグ・デ・ラランデについて
- 3 デ・ラランデ事務所の移転時期、一家のドイツへの帰国時期について
- 4 廣田理太郎邸の構想から完成まで
- 5 役割分担について
- 6 代金支払い等
- 7 まとめ

キーワード 建築資料 ゲオルグ・デ・ラランデ 矢部國太郎 矢部又吉 廣田理太郎

1 はじめに

平成26年度、江戸東京博物館では廣田理太郎邸に関する資料447点（以下、「本資料」とする）を購入した。この資料については、「廣田理太郎邸に関する資料の紹介」『東京都江戸東京博物館紀要 第6号』（平成28年3月）において一部の資料を紹介したが、本稿では、前稿の補足を含め、本資料の全体像を紹介する。

廣田理太郎邸は、東京市麹町区下二番町に建てられた木造3階建ての住宅、設計者は、ゲオルグ・デ・ラランデである。

雑誌『建築画報』（第3巻8号）建築画報社・1912年（明治45）7月号には、廣田理太郎邸の掲載がある。誌上では「セセッション式。設計、監督共に、ゲー、デ、ラランド氏なり。」という解説と外観の写真2点掲載されている。【写真1】また、1912年（明治45）1月に発行された『日清朝土木建築業者信用録 第一版』（日本実業興信所発行）¹⁾には、「麹町区下二番町廣田理太郎氏住宅 三階建塗家138坪」と掲載されている。【写真2】

施主廣田理太郎（1865–1935）は、広島県出身の工学者・実業家である。妻・トシ（1875年生）、長男・孝一（1896年生）、長女・静枝（1897年生）、二男・洋二（1899年生）、二女・嘉代（1901年生）、三女・

*東京都江戸東京博物館学芸員

崑代 (1901年生)、三男・博夫 (1904年生) の 8 人家族。²⁾ 廣田は、1887年に東京帝国大学工科大学機械科を卒業。紡績会社技師、鉱山技師を経て、1894年にドイツ系商社である高田商会に入社し、事務長・監事を務めた。



(4) 廣田理太郎氏邸 (写真二下図参照)



(5) 廣田理太郎氏邸 (写真二下図参照)

【写真1】 廣田理太郎氏邸
『建築画報』(1912年7月号)

(け)ノ部

(氏 - デラランデ)

ゲイ、デラランデー
建築技師
事務所 東京市四谷區東信町二十九番地
妻 イー、デラランデー (二十四年)

重ナル工事ノ成績

▲横濱山根岸 ミニラム氏住宅(三階建煉瓦造六十坪) シメ
リーカ氏住宅(二階建煉瓦造六十坪) パバジャン氏住宅(二階
建木造五十五坪) スタインチ氏住宅(二階建木造四十坪) ボー
ル氏貸家住宅(木造六十五坪) マルク氏住宅(三階建木造四十
八坪)

▲横濱山手町 百二十二番アグリマ氏住宅(三階建石造百坪) 八
百二十五番ボリル氏住宅(三階建煉瓦造四十五坪) 百四十八番
ジヤサン氏住宅(二階建木造五十坪) 六十番獨逸領事住宅(煉
瓦建四十五坪)

▲横濱山下町 七十四番インタナショナル銀行(四階建石造二
百五十坪) 五十四番イリス商会(四階建煉瓦造二百四十五坪)
二百七拾番メッシュン商会(三階建煉瓦造五百坪) 百九拾
八番オットラマース商会(二階建煉瓦造百二十坪)

▲神戸山手町 トーマス住宅(三階建煉瓦造七十坪) 住吉ハ
ーメンセル氏住宅(三階建石造百坪)

▲神戸海岸 オラエンタルホテル(石造五百七十坪)

▲京都 京都基督教青年會館(四階建煉瓦二百坪) フエルブス
氏(三階建煉瓦五十坪)

▲仙臺 東北學院(四階建煉瓦造八百坪) タツタ氏住宅(二階建
木造四十坪)

▲東京 總町獨逸大使館(二階建煉瓦造二百七十坪) 總町下二
番町廣田理太郎氏住宅(三階建煉瓦造百二十八坪) 早川鐵治氏邸
(二階建煉瓦造五十坪) 麻布寺内伯爵邸(二階建煉瓦造六十五
坪) 駿河臺高田登吉氏邸(二階建六十坪) 築地レイメンズシ
ユツケルト(二階建煉瓦造百二十坪)

◎備考 主人ノ經歷ハ本報調査課ニ照會アリタシ

【写真2】 デ・ラランデー
『日清朝土木建築業者信用録 第一版』

2 設計者ゲオルグ・デ・ラランデについて

ゲオルグ・デ・ラランデについては、青木祐介氏により『横浜都市発展記念館紀要』第7号³⁾に詳しく紹介されている。また、ドイツでデ・ラランデに関する調査を行ったマイト美智子氏⁴⁾は1981年にデ・ラランデの長女ウルスラさんに面会した唯一の研究者である。これらの成果をもとに簡単にデ・ラランデの経歴に触れる。

ゲオルグ・デ・ラランデ (Georg de Lalande) は1892年9月6日、ヒルシュベルグ (Hirschberg 旧ドイツ領・現ポーランド領) にて建築家オイゲン・デ・ラランデ (Eugen de Lalande) の4人兄弟の長男として生まれる。

彼は1903年(明治36)5月に横浜で建築事務所を開業していたドイツ人リヒャルト・ゼール (Richard Seel) に招かれて来日し、同年11月にドイツに帰国したゼールの事務所を引き継いで日本での建築活動をはじめ。1905年(明治37)7月5日、32歳のデ・ラランデは15歳年下のエディータ・ピチケ (Edith Pitschke) と結婚。横浜・根岸にて新生活を始め、1906年8月10日に長女ウルスラ (Ursula) が誕生。1907年には、次女のオッティ (Otti) が生まれ、1909年に三女のユキ (Yuki) が誕生。ユキは一家でドイツのヒルシュベルグに帰省していたときに誕生している。翌1910年には東京で四女のハイディ (Heidi) が生まれ、1912年(大正元)に長男ギド (Guido) が誕生している。

デ・ラランデは、住宅のほかドイツ大使館、学校、ホテル、商会、銀行などを設計。1914年(大正3)には、第一次世界大戦が始まり、日本在住のドイツ人にも召集令が出されたという。しかし、デ・ラランデは急性肺炎のため8月5日の夜に41歳で急死。彼の遺骨は26歳で未亡人となったエディータが1914～15年にかけて幼い子供達5人を連れて、夫の生家があるヒルシュベルグに持ち帰ったとのことである。

3 デ・ラランデ事務所の移転時期、一家のドイツへの帰国時期について

もともと横浜にあったデ・ラランデの建築事務所が、四谷区東信濃町へと移転した時期については、堀勇良氏による調査で、1908年(明治41)4月7日付の英字新聞『THE JAPAN TIMES』にデ・ラランデ建築事務所に関する広告掲載があり、1908年4月にデ・ラランデ建築事務所は、四谷区東信濃町29に移転したことが確認⁵⁾される。しかし、横浜から四谷区東信濃町29に引っ越しをしたあと、デ・ラランデは、『幕末明治在日外国人・機関名鑑』(ジャパニディレクトリ)に名前が掲載されていない時期があり、1908年から1909年にかけて家族でドイツに一時帰国していたと推定される。

本資料の中には、デ・ラランデが廣田理太郎宛てに出した書簡が56点、デ・ラランデ事務所の庶務主任イーデニングが出した書簡が3点、英語通訳竹内松吉が出したと思われる書簡が3点、廣田理太郎がデ・ラランデに宛てた書簡の下書きが3点ある。書簡には、デ・ラランデにより発信年月日が記されているもの、デ・ラランデ事務所の事務所スタンプが押されているものがある。また、受領後に廣田理太郎本人あるいは執事かが受領年月日を記し、RH(廣田理太郎のイニシアル)のスタンプが押されてい

るものがある。

本資料のうち日付が明らかな文書の中で一番古いものは、デ・ラランデが廣田理太郎宛に出したもので、廣田理太郎邸について触れる書簡（資料番号14240003）で、1909年（明治42）1月22日のデ・ラランデ事務所スタンプが押されている。前述のとおり、三女のユキは1909年にデ・ラランデの故郷ヒルシュベルグで生まれていることや、紙ファイルに連続して綴られていた廣田理太郎宛の次の書簡の日付が約1年後となる1910年2月8日であることを考えると、この書簡の日付は、事務所スタンプの年代が1909年1月であるのは誤りで1910年1月であると考えの方が正しいのではないだろうか。加えて1909年（明治42）8月に廣田理太郎が自宅の設計を検討している文書⁶⁾が存在することも考慮すると、1909年にデ・ラランデ一家はドイツから日本に戻っているとしても、1909年1月22日にすでに日本にいて、廣田とデ・ラランデが住宅の設計を相談している可能性は低いのではないかとすることを再び指摘しておきたい。

本資料のうち、日付が明らかなもののうち一番新しい資料は、デ・ラランデによる1913年（大正2）10月2日付絵画購入の際の領収書同封と、廣田に新たな仕事斡旋を依頼する書簡（資料番号14240446）である。

本資料は、1909年もしくは1910年から1913年10月まで3年以上に及ぶ廣田理太郎邸の建設とその後の調度品等の購入に関する資料のまとめである。

4 廣田理太郎邸の構想から完成まで

廣田理太郎が自宅を建てることを構想してから、実際に住み始めるまでは下記の期間に分類できる。

(1) 自宅設計者の選定期

廣田理太郎邸関係資料は、前稿にも記したとおり、もともとはひとつだった文書類が、いくつか分割されて古書店の手にわたったことが明らかになっている。

廣田理太郎は、デ・ラランデ以外の建築家にも自宅の設計を相談し、最終的にデ・ラランデに依頼することに決めたようである。

(2) デ・ラランデを設計者と定め、間取り等の検討をする時期

廣田理太郎とデ・ラランデの間では、どれくらいやりとりがあり、最終的な平面図が決まったかは不明である。本資料の中には廣田理太郎自身が新築する自宅の構想を英語で書いたメモ（資料番号14240001）がある。市販の紙に鉛筆で書かれているものであるが、英語の筆記体を多用しており判読はなかなか難しい部分もある。

(3) 自宅の施工と、施工管理の時期

本資料の主な部分を占めている。新築工事の支払いや物品の購入の際に発生した文書を2冊の紙ファイルに丁寧に綴じて保管していたもの。これらの文書は、ほぼ時系列に綴じられている。

新築工事に要する期間は当初、1910年9月から1911年9月までの約1年間と決めていたようである。矢部國太郎の息子で、営業主任であった矢部又吉が1911年9月に工事の遅れを詫げる書簡（資料番号

14240073) を廣田理太郎宛に書いている。

(4) 自宅の新築後、それまで住んでいた日本家屋を修繕し外構を整える。

自宅の新築工事が終了したあとは、矢部建築事務所と廣田理太郎が直接やりとりをしている文書類が多数ある。日本家屋の修繕や、外構工事を行っていたことがわかる。

5 役割分担について

廣田理太郎とデ・ラランデ建築事務所、矢部國太郎【写真4】の役割分担については、下記のように整理される。

(1) デ・ラランデの業務

- ・ 廣田理太郎邸の図面作成 Design【写真3・口絵1】
- ・ 工事の施工管理

(2) 矢部國太郎が請け負った廣田理太郎邸に関する工事内容

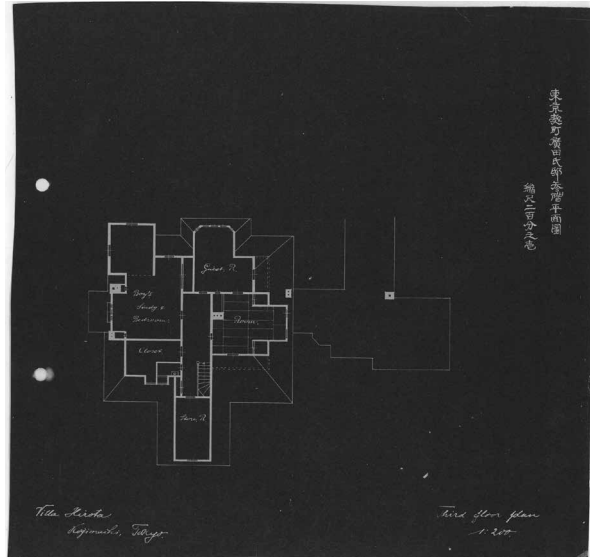
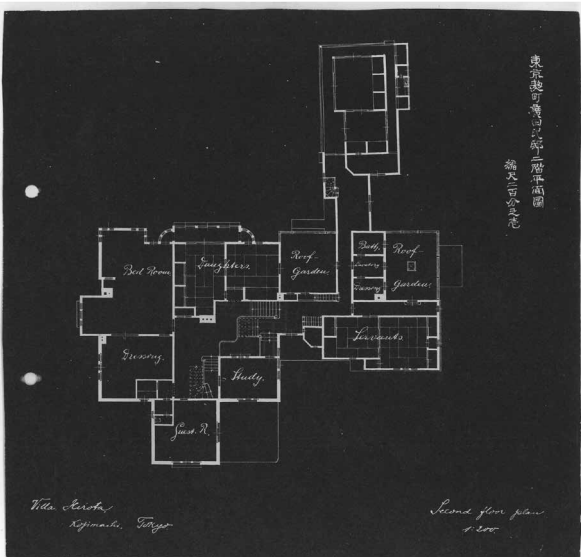
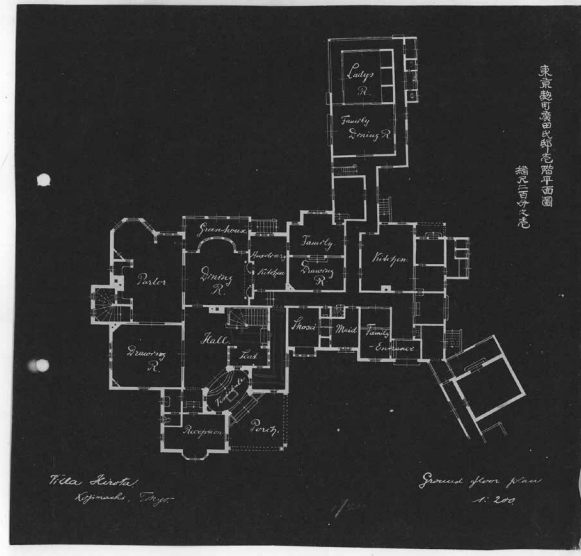
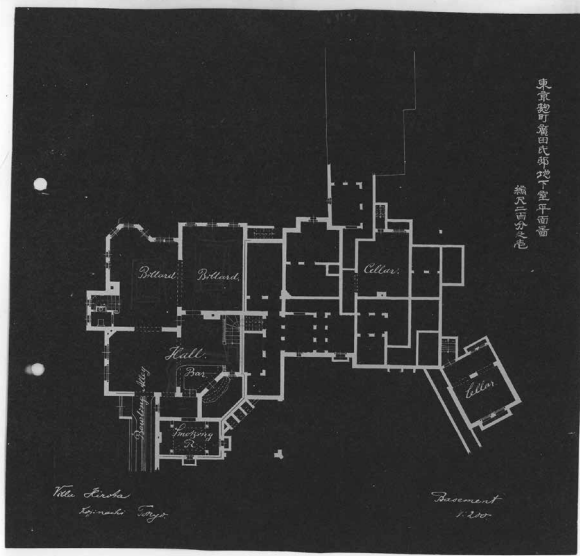
矢部國太郎は、ゲオルグ・デ・ラランデの実績にも挙げられているインターナショナルビル、イリス商会など横浜の外国人建築家の設計による工事を請け負っていたことがわかっている。

今回、この資料からは矢部の担当していた工事の実態が読み取れる。

- ・ 母屋 附属屋 Main-house and annex
- ・ 日本家及び蔵 Japanesehouse and Kura
- ・ ボーリング場 Bowling-alley
- ・ 門、門番家、車寄せ Gate,mombanhouse, Kuruma porch
- ・ 門から母屋に至る廊下 Passage from the gate to main building
- ・ 塀と排水 Side fence, Drainnage

(3) 矢部國太郎が受託している建設工事の内訳

- ・ 地盤工事 Earthwork
- ・ 基礎工事 Foundation and Concrete-work
- ・ 石煉瓦工事 Stone and Brick-work Roofwork
- ・ 木工事 Carpenter-work
- ・ 設備工事 Joinerwork
- ・ 金物工事 Iron Monger
- ・ 漆喰工事 Plasterwork
- ・ ブリキ工事 Tin-work
- ・ 塗装工事 Painting-work
- ・ 配管工事 衛生工事 Plumbing work and sanitary Goods
- ・ 電気設備 Electric wiring
- ・ 雑工事 General



【写真3】廣田理太郎邸平面図
14240219 ~ 0222



【写真4】 矢部國太郎
『日清朝土木建築業者信用録 第一版』

(4) デ・ラランデが調達する物品と取り付け Materials and Work to be supplied by and through the architect Mr.Lalande

デ・ラランデは当時、建材の輸入を行っていたことが既存研究から判明している。

廣田理太郎邸においては、以下の物品の準備と取り付けは、デ・ラランデが請け負っており、商品見本や購入のための見積書等が残されている。

- ・家具 Furniture
- ・ストーブ Stove
- ・絨毯とカーテン Carpets and Curtain
- ・ステンドグラスと鏡 Stained-glass and mirrors
- ・照明器具 Electric chandeliers

6 代金支払い等

新築工事代金の支払いは、分割して行われ、1か月ごとの進捗に合わせて矢部國太郎から請求書が発行され、矢部からの請求内容をデ・ラランデ事務所が精査した上で、廣田理太郎に支払いを依頼している。【表1】

【表1】 矢部國太郎への工事代金支払い一覧表

事 項	金額	領収書日付
第1回 工事代金支払い	1,600 円	1910 年 10 月 31 日
第2回 工事代金支払い	3,000 円	1910 年 11 月 30 日
第3回 工事代金支払い	4,402 円 30 銭	1910 年 12 月 30 日
基礎 追加工事費	2,647 円 16 銭	1910 年 12 月 30 日
第4回 工事代金支払い	1,934 円 48 銭	1911 年 1 月 31 日
第5回 工事代金支払い	3,596 円 80 銭	1911 年 3 月 1 日
第6回 工事代金支払い	3,895 円 92 銭	1911 年 3 月 31 日
第7回 工事代金支払い	2,079 円 44 銭	1911 年 4 月 30 日
第8回 工事代金支払い	1,500 円	1911 年 5 月 31 日
第9回 工事代金支払い	3,718 円 72 銭	1911 年 6 月 30 日
第10回 工事代金支払い	1,803 円 4 銭	1911 年 7 月 31 日
第11回 工事代金支払い	1,000 円	1911 年 9 月 4 日
第12回 工事代金支払い	1,500 円	1911 年 9 月 30 日
第13回 工事代金支払い	2,000 円	1911 年 10 月 31 日
臨時工費	3,136 円 40 銭	1911 年 12 月 15 日
地下室腰羽目工費	500 円	1911 年 12 月 30 日
第14回 工事代金支払い	1,500 円	1912 年 2 月 29 日
臨時工費	782 円 15 銭	1912 年 2 月 29 日
新築工事残金	845 円 30 銭	1912 年 4 月 22 日
臨時工費	282 円	1912 年 5 月 31 日
第15回 工事代金支払い	563 円 15 銭	1912 年 5 月 31 日
ボーリングアレイ工事	300 円	大正元年 7 月 31 日
新築外構セメント残金	50 円	大正元年 7 月 31 日
ボーリングアレイ残金及び請負工事費代金	466 円	大正元年 9 月 16 日
木製庭階段	171 円	大正元年 9 月 26 日

本資料からわかる物品等の主な購入先は一覧のとおり。【表2】

【表2】領収書等による支払い先一覧表

資料番号	項目	商店名等	日付
14240205	電話電設工事	光電社本店	1912年3月26日
14240206	麹町区下二番町廣田家電話電設工事	光電社本店	1912年5月11日
14240210	ハーモニカ・ドア・ストーブ	TAKATA & Co.	1912年4月25日
14240215	米国式四つ玉 玉突台付属品一式	中村安太郎	1912年3月22日
14240228	玉突台付属品	中村商店玉突台部	明治45年6月
14240230	スタンドグラス	スタンド硝子工場	1912年6月7日
14240232	電燈御新設22燈に対する売渡工事	高田商会電気工業所	1912年6月17日
14240247	カーテン・カーペット・壁紙	KANITZ & Co.	[明治45年]
14240260	室内紙壁張付方	高橋安	明治45年7月
14240261	酒場用棚・椅子帽子掛枠・籐箱・帽子掛金物	塚本善之助	明治45年7月
14240264	長椅子・安楽椅子・小椅子、緞子張長椅子・肘掛椅子	三越呉服店 室内装飾部	1912年6月23日
14240267	シーリングライト・菊型座金・ストーブ・電燈ブランケット	根岸吉松	1912年7月13日
14240277	セルカン・七子羅紗・レースブラインド・タバストリー	三越呉服店	明治45年6月
14240278	スタンド硝子	スタンド硝子工場	1912年6月29日
14240280	洋館小壁張付・室内紙付代金・グラスシェード・ダイレクション イルミネーション・乳色シェード	高橋安	[明治45年] 6月30日
14240296	ソファ・大椅子・小椅子・テーブル	木下商店	1912年5月6日
14240299	キャビネット櫛製組子硝子戸・引出付他家具類	清水米吉	大正元年9月21日
14240307	客間電気飾り・ピロード窓掛・レース・フレンジ他仕立	青木長次郎	大正元年9月
14240311	押入・丸テーブル	神谷平吉	大正元年10月15日
14240314	シャンペン・クラレット・ポー	旭硝子合資会社 東京支店	大正元年10月6日
14240318	揚弓一式・矢立	加藤弓具店	大正元年11月12日
14240322	横浜レーン・クロフォード百貨店購入メモ	LANE,CAWFORD&Co.Ltd	大正元年11月11日
14240327	板簾・ペンキ塗り手間代金	田中栄吉	大正元年10月30日
14240331	パラピン線・応接押釘・鉄網コンクリート塀	伊藤松次郎	大正元年10月17日
14240351	小椅子・肘掛椅子	C.Aoki(青木長次郎)	大正元年11月27日
14240357	舶来茶塗額縁	八咫屋	大正元年12月8日
14240362	火鉢・椅子4脚付テーブル・傘立・鏡・テーブル・椅子/三つ組卓子・ テーブル・火鉢・傘立・台付長椅子	長津工場	
14240363	アメリカ製玉突台及び付属品一式	福澤熊次郎	[大正元年]
14240369	ランタン	Franz R. Conred, Berlin, S.O.	
14240372	金筋四ツ組食器、金筋パン食器	十一屋商店	大正元年12月18日
14240380	籐製椅子・テーブル	SHANG CHEONG & Co Rattan chair Makers	大正元年12月20日
14240381	栓材製戸棚代金	清水米吉	大正元年12月28日
14240383	ブラケットライト・シーリングライト、カーテンパイプ。カーテ ンリング	根岸吉松	大正元年12月23日
14240392	上等額絵	玉木商会	
14240393	フランス鳩鳴掛時計	天賞堂	大正元年12月31日
14240398	アスベストシート・リノリウム	藤原商店	大正元年12月28日
14240402	舶来白瓦	欧風金物類 堀商店	1913年1月9日
14240405	建物火災損害保険契約に係る書簡	明治火災保険株式会社 営業係	1913年2月16日
14240407	アンティークレザー・カーペット・カーテン・ウォールペーパー	KANITZ&CO.	大正元年12月17日
14240408	ガスメーター他取付け	東京瓦斯株式会社	大正元年1月7日
14240414	酒の棚・錠前・腰掛	神谷平吉	1913年1月31日
14240421	ストーブ道具付属部品・電話前ストーブ・鉄扉アングル	根岸吉松（釘）	[大正2年]
14240426	小形・大形額	地球堂商店	[大正2年] 2月13日
14240428	ナイトラッチ壱組	建築金物商会	1913年2月6日
14240431	ストーブ	独逸商会 謙信洋行	1913年2月18日
14240438	二階客室室布団直し	清水六三郎	大正2年2月
14240439	ストーブ	ASADA KAISOTEN	1913年2月25日
14240444	壁紙	神戸元町クロフォード&カン パニー	[大正2年] 11月7日

7 まとめ

ゲオルグ・デ・ラランデに関する資料は、デ・ラランデ事務所の製図掛^{かかり}であった臼井泰治氏の息子・臼井齊氏が自宅にて保管していた資料群が、現在、広島平和記念資料館と横浜都市発展記念館に分かれて所蔵されている。

今回ゲオルグ・デ・ラランデの資料としては、本稿で紹介したデ・ラランデの自筆であることが明らかな書簡は貴重であり、日本の博物館に収集されたのは初めての事例と思われる。

また、2018年には佐倉市美術館において「知られざるドイツ建築の継承者 ―矢部又吉と佐倉の近代建築」という展覧会が開催され、これらの廣田理太郎邸の資料の一部が、多くの方の目に触れる機会を得た。前稿の執筆時から時間が経っているが、書簡の解読が進んでいないことを大いに反省している。

江戸東京博物館では、江戸東京たてももの園の復元建造物であるデ・ラランデ邸が、平屋建ての洋館から、3階建てに増築された時期について、引き続き調査を継続していく。

【註】

- 1) 江戸東京博物館所蔵
- 2) 『人事興信録』1911年4月
- 3) 青木祐介「建築家デ・ラランデと横浜」『横浜都市発展記念館紀要』第7号（横浜都市発展記念館、2011年）
- 4) マイト美智子氏は、上智大学外国語学部イスパニア語学科卒業後、ドイツ・ケルン大学で西洋美術史を専攻。学位論文「1542年以降、ヨーロッパ及び北アメリカ建築の日本への導入過程」で博士号を取得。藤森照信『建築探偵の冒険』でマイト美智子博士として登場。
- 5) 堀勇良『日本の美術447 外国人建築家の系譜』（至文堂、2003年） デ・ラランデは、1908年（明治41）4月7日東京四谷区東信濃町29番地に事務所を移転との記載。
- 6) 当館所蔵ではない一連の廣田理太郎邸関係文書の中に確認される。